

結 論

池川河口内に生棲して居る輸出可能サング糖魚類は判明しただけで64種あり、その中で採捕し易く、多量に居るのは下記の種である。

ハマタマノミ	<i>Aequipon frenatus</i>
タマノイモドキ	— <i>solus</i>
オクレンマノミ	<i>Actinocula parula</i>
ミスリュウキユウズメ	<i>Tetradrachma aruanae</i>
ヤンランスズメ	<i>Abdefduf outjerinae</i>
ルリスズメ	<i>Chrysiptera aequililla</i>
コバルトスズメ	— <i>hollei</i>
イツボンタロスズメ	<i>Dascyllus trimaculatus</i>
シチモンベラ	<i>Liemadella fasciata</i>
ホンソメワケベラ	<i>Labroides dimidiatus</i>
サザナミヤッコ	<i>Pomacentrus senicirculatus</i>
ツノイウ	<i>Zanclus cornutus</i>
ネツタイミノカサゴ	<i>Pterois antennata</i>

これらは日本で高価に取引されているばかりでなく又輸送にも強い貴重な魚である。今回の調査では以上の通りであるがこの外にもまだ沢山あると思われる。今後これらの輸出を盛んにして沿岸魚民経済を豊かにする一端ともなれば幸いである。

参考文献

魚類の形態と検索	松 原 喜代松
有月魚類千種	田 中 茂 穂
原色日本魚類目録	藤 原 裕 治
琉球列島産サング糖魚類の研究	青 柳 兵 司
海水魚の飼ひ方	石 川 貞 二

(4) 源河川産魚類検索

源河川区長より依頼のあつた源河川で採れる魚〔方言ミヤウ〕の検索をしたところオオクチュウイ *Kuhlia rupestris* 及びミゴイ *Kuhlia marginata* の二種であることが判明した。調査結果は下記の通りである。

1. 種の検索……オオクチュウイ *Kuhlia rupestris*

- a. オ一鰭弓の下枝鰭枚数は18~19本、側線鱗は43~44枚
- b. 上顎主骨の後端は眼杯の中央下か或はそれより後方に達する。
- c. 鰭はすべて後縁が厚い、側線は曲線をなしている。

- d 胸鰓基底部に接する体側下面に6~8個の黒点が一列に並ぶ
- e 背鰭10棘、11軟条、胸鰭12~13軟条、腹鰭1棘5軟条、臀鰭5棘10軟条、尾鰭17軟条
- f 尾鰭後縁は僅かに凹入する。

2. 分類上の位置

魚類(Pisces) 鰐骨上綱(archostomata) 硬骨魚綱(osteichthya) 真口亜綱(Teleostomi) 硬骨上目(Teleostei) スズキ目(Percide) スズキ亜目(Percina) ヌゴイ科(Eubliidae) ヌゴイ属(Eublia) オオクチヌゴイ(Eublia rupestris)

3. 分布及び方言

伊豆伊東(ヌゴイ)、種子島(ニコ)、奄美大島、沖縄本島(ミキヌウ)、久米島(ミウ) 宮古島(ナアズ) 八重山(オアラミイヒカリ) 与那国(ミサダ) Philippines 東印度諸島 Polynesia, Micronesia, Melanesia, Queensland, Mauritius, Singapore, Natal, Mangrove, Johore に亘つて分布する。

4. 習性及びその他

熱帯方面に多いもので淡水と海水との交じる池沼に居ることが多い。伊豆、吾ノ池は温泉湧出して水温が高けが是に産する。

沖縄本島に於いては北部の河川に多くみられ体長は1尺に達する。

飛んでいる蠅や蚊、バッタ等を飛び上つて捕食するという珍らしい習性をもっている。検査した一尾から開腹の結果体長約4.5cm、体巾1cmのミンミン蝶が殆ど原形をとどめた状態で出てきたが、一般にこの魚は動物性餌料を多くとる様である。

三年魚で体長14.5cm、体重100gになる。

体長と体高の比は約3:1の割合である。

5. 雌雄の判別

- a 雌の生殖孔部は雄のそれよりふくれあがり、乳管が大で舌状突起でおいがぶさつている。
- b 雌の背鰭のオ1、オ2軟条に黄褐色の斑紋があるが雄にはない。
- c 雌の臀鰭のオ1、オ2、オ3軟条に黄褐色の斑紋があるが、雄にはなへか成いけあつても薄く黄色をなしている。
- d 雌の尾鰭の前縁、後縁にはつきり認められる黄褐色の斑紋があるが雄にはみられない。

1. 種の検索………ヌゴイ Eublia marginata

- a オ一鰭弓の下枝鰭刺数は15-19本
- b 背鰭鱗は40~44枚、側線は径×直線をなす。
- c 上顎主骨の後端は眼の中央下に達しないか或は漸く達する。

d 側線下の部の硬鱗はオオクチユゴイと異なり数少黒点がある。

腹部の鼻に至つては全然黒点なく純白色をなしている。

e 臀鰭基部に接する体側下面に数少な黒点が散する。

f 背鰭10軟棘11軟条、胸鰭12~13軟条、腹鰭1棘5軟条、臀鰭3棘、11~13軟条、尾鰭17軟条

g 尾鰭後縁はオオクチユゴイのそれより尚凹入する。

2. 分類上の位置

魚類(Pisces) 鰐骨上綱(Gnathostomata) 硬骨魚綱(Osteichthyes) 真口亜綱(Teleostei)

硬骨上目(Teleostei) スズキ目(Perciformes) スズキ亜目(Percinae) ヨゴイ科(Kuhliidae)

ユゴイ属(Kuhlia) ヨゴイ(Kuhlia marginata)

3. 分布及び方言

琉球列島での分布と方言はオオクチユゴイの場合と同じ。本州、中部、以南、台湾、Philippines、西印度諸島、Melanesia、Micronesia、Polynesia、Southamerica等に亘つて分布する。

4. 習性及びその他

オオクチユゴイと殆ど同じ

二年魚で体長13.2cm、体重5.5gになる。体長1.9cm、体重55.0mgの雌魚を開腹し卵を檢鏡した結果成熟卵で卵径0.19mmに達していた。体長と体高の比は約3:1の割合になる。

5. 雌雄の判別

オオクチユゴイの場合と同様

備 考

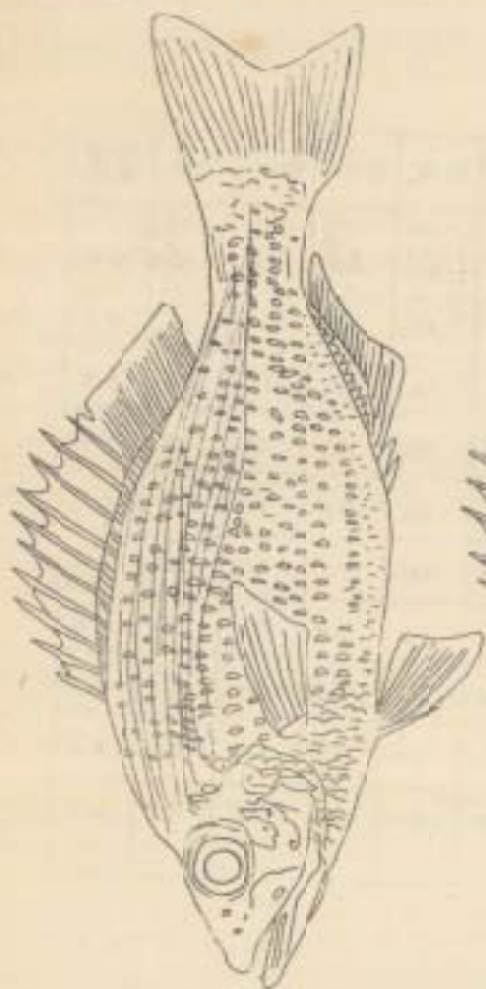
田中茂穂著の「有用魚類千種」によるとオオクチユゴイがユゴイとなつている。

参考文献

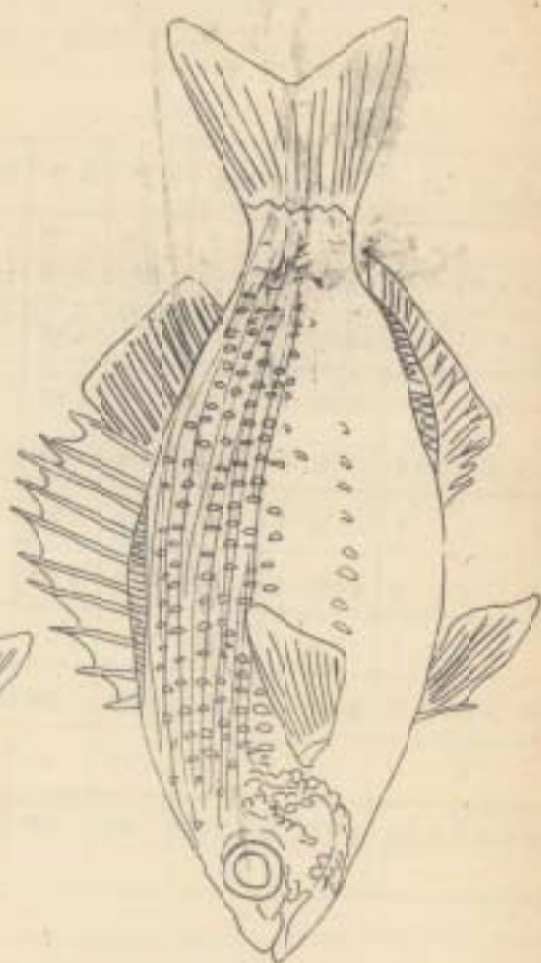
- | | |
|---------|----------|
| 岡田 善一 著 | 日本産魚類検索 |
| 末広 泰雄 著 | 魚類学 |
| 蒲宮 隆 著 | 原色日本魚類図鑑 |
| 松原 高代 著 | 魚類の形態と検索 |
| 田中 茂穂 著 | 有用魚類千種 |

魚類測定表

魚種名	年魚 性別	重量	全長	体長	体高	体巾	吻長	眼径	側線 鱗数
オオノチユゴイ	2年魚 ♀	725	158	150	48	24	14	10	42
ユゴイ	2年魚 ♂	560	160	152	45	20	17	11	43
オオノチユゴイ	3年魚 ♂	1000	173	145	54	30	10	11	44
オオノチユゴイ	1年魚 ♀	270	114	64	35	15	80	09	不明
ユゴイ	1年魚 ♀	400	139	114	41	20	10	09	41
ユゴイ	2年魚 ♀	550	150	119	40	21	10	10	40
ユゴイ	1年魚 ♀	320	130	101	36	18	09	09	44
ユゴイ	1年魚 ♂	170	112	88	28	15	07	09	43
ユゴイ	1年魚 ♀	170	117	87	27	15	08	08	42
オオノチユゴイ	1年魚 ♀	160	99	80	27	14	08	08	42



アヲクヲチユコイイ(♀)
Kullia nipponica (dactyloides)



コクイイ(♀)
Kullia marginata (Cuvier et Valenciennes)

琉球藻類植物類群検索

調査員 久高喜八郎

琉球藻類協同組合連合会より依頼のあつた藻類(糸満町七区上原勇氏採集)を検索したところが紅藻類のオゴノリ綱に属するカタオゴノリ *Oncularia lichenoidea* (L) Her. と判明した。調査結果は次の通りである。

1. 檢 索

綱の検索………真正紅藻綱 Floridaceae

a: 細胞分裂後細胞との間に原形質の連絡点を作る受精卵は体上で発芽して直接又は間接に果胞子嚢をつける糸を作る。

目の検索………スギノリ目 Gigartinales

a: 受精卵は発芽してまず助細胞に連絡し、この助細胞から果胞子嚢を作る糸を出す、果胞子は発芽してテングサ目と同様4分粒子体に発育する。

b: 助細胞は単の受精前から用意される

c: 助細胞には普通の栄養細胞糸上の1細胞になる。

科の検索………オゴノリ科 *Onculariaceae*

a: Gonimoblast は助細胞から生じ始めて体の外方に胞子となる。

b: 体には中軸がない、體は全部細胞組織からなる。

属の検索………オゴノリ属 *Oncularia*

a: 体は直立する

b: 体は円柱状又は扇葉状

種の検索

a: 体は絲状又は円柱状をなす

b: 枝の基部はくびれない

c: 主枝は細く他と同様に細い

2. 種 名

カタオゴノリ *Oncularia lichenoidea* (L) Her.

3. 形 態

体は絲状、円柱状極めて傘*に上方に細く、頂端組織、各方面に密に羽状に分枝する。主枝は長く長分蘆木状に屈曲し、側在した枝を有し枝は皆広い腋を以て立ち基部は狭くなく同じ太さを有する。其次此処に稍又状の胞を呈し、全体の輪廓は扇形状を為す。体の構造は内部は稍大で円く殆ど空虚な細胞からなり膜稍厚く直径20~40 μ 、其外面は遂に小なる皮層細胞を以つて囲まれる。内部の皮層細胞は外部のものより幾分大きく(内部の稍大なる皮層細胞は直径20~25 μ)其細胞膜は厚く放射状の細状を呈す。生時の色は淡くやゝ紅褐色を呈する。

4. 分 布

琉球、印度洋、セイロン島、ジャバ

5. 利用価値

本属は根粉糊料又は寒天材料とする。特にオゴノノ *Graellaria verrucosa* (Balson) は近頃では単独にも寒天原藻として利用されているほどである。

本種も糊分は含まれているが少いと云われているので食用にはなるが寒天原料としてはあまり期待出来ないのではないかと思われる。兎に角一度試験をやり糊分の含有量、水分等を調査する必要がある。

参考文献

- | | |
|----------|---------|
| 原色日本海藻図鑑 | 瀬川 宗吉著 |
| 日本海藻誌 | 岡村 金太郎著 |
| 水草植物学 | 荒田 三郎著 |

カサオゴノリ 体横断面



カサオゴノリ

